

インタビュー：岡崎乾二郎

# 建築が思想をもつ条件

聞き手：長島明夫

日時：2009年11月11日

場所：四谷アート・ステュディオム

岡崎さんの芸術作品の見方は刺激的だ。作家による作品性を所与のものとして、それぞれの作品から経験される質を軸にして、作家の無意識や作品の歴史的・文化的な背景などがあざやかに照射される。そしておそらく建築は、そうした主体が意図せざる要素を多く含む不純なメディアだろう。岡崎さんの言葉は、主客の二元論を相対化し、個人と世界のあいだを捉えようとするこの特集のなかで、大きく響いてくるに違いない。

## 1 建築としてある思想

岡崎 建築でいちばん面白くて、かつ厄介な点は、それをつくった建築家自身もしくはクライアント自身が自覚できることを超えて、建築の存在自体がもつ意味のほうが大きくなってしまっている点にあると思います。いわば建築家が思想をもつのではなくて、建築自体が思想を示してしまおう。ゆえに、いかなる有能な建築家であっても、アノニマスな建築がもつてしまおう思想、それが歴史として文化に対して照射する深度を超えることができない、そういうことが往々にしてある。美術作品にもそういうところはあって、岸田劉生や熊谷守一、山下菊二とか、僕が影響を受けた作家というのは、作品それ自体の質を超えた深みをもっている。作品の善し悪しではなく、なぜそのような作品が存在しているか、そんな作品があるということ、それは沼地のようにだから連続する文化（連続した文脈として一つの文化が組織され、文化的な生産物がそれに位置づけられることではじめてその存在証明を得るのであれば、この文脈とは、ただ切断されないことによるのみ根拠をもつ、沼地のようです）に突き刺さった杭のようにも感じられます。その杭によつてはじめて文化の厚みも、その流動物に含まれる無数の不均質な粒子、抵抗物も明らかになる。特に建築の場合、まさに、こうしただからだとした場所と歴史の中に建てられているわけですから、その根のおろし方、立ち方こそが問題になります。

唐突ですけど、こんな建築のあり方は写真というものに近体としての空間も時間も客観的には存在しない。それは人為的な観念にすぎず、主観的な存在ではない、というものです。そして人間という統合性そのものも覆された。つまり時間も空間も人間精神も存在しない。それは主観的に構成される像ではない。フロイトもアインシュタインもベルグソンもフッサールもマクタガートも、キュビズムもダダもシュルレアリスムも、考える道筋においては対立するとしても、空間、時間の実在を前提としないことでは共通している。これが二つ目の近代主義です。二〇世紀以降に現れた芸術のモダニズムというのは、むしろこちらを前提にしていたと考えていいでしょう。テクノロジー、政治的な制度は十七世紀以来の一番目の近代主義＝均質空間、連続空間を実現しようとしていましたが、それが実現に近づいたとき、すでにそれが破綻していることがはっきりした。具体的には第一次世界大戦。まさに異質な空間と空間が戦って、一つの連続空間を確保しようとして行われる総力戦。ここで空間と時間の崩壊は明らかになった。

二〇世紀以降、近代は二種類の相反する考えに分裂し、そのズレとして存在してきました。一つは、いうまでもなく四〇〇年近い前、十七世紀に生まれた観念をモデルに理解されていまます。デカルト（1596-1650）ですね。デカルトは人間という統一された主体を基礎づけた。まず身体そしてその身体に伴って生起される感覚、経験、行為のさまざまが、一つの主体、精神によって束ねられ、統御されるものと仮設した。それをコギトと言った。そして、一つに連続＝延長する空間、時間というものを考えた。いわゆるカルテジアン座標です。すべての事象、事物、主体も、この座標に位置づけられる。そして国家に代表されるような社会制度、また交通、経済、交換の基盤システムは、この四〇〇年前に生まれた、すべてを位置づけ測量できる座標軸で表される、均質な連続体としての空間、時間、そこに位置づけられる主体の自己同一性をこそを、現実化すべく展開してきたともいえます。つまり日本語でいえば、人間、時間、空間となる。奇しくもすべて「間」というのが入っていますけど、まずばらばらに生起する無数の感覚として経験、事象、出来事群の間を、繋ぎとめ、連続させるために要請された媒体、観念です。

しかし、二〇世紀以降の哲学、科学、芸術の発達は、この空間、時間、人間という観念を疑うことから始まっている。連続

こうして、二〇世紀初めに現れた新しい空間、時間の考え方の典型として、マクタガート（1868-1928）の考え方をみてみましょう。彼はA系列、B系列、C系列という三種の時間モデルを使って説明します。この三つのモデルがはつきりデカルト的世界観の崩壊を示してくれます。A系列とは出来事の前後という関係のみが規定されている。A系列において出来事は特定の時間に固定されず、あとから現れる出来事によって、未来の出来